

## 2010 年度第 4 回日本語教育巡回研修会：報告

今回の研修会では、筑波大学大学院人文社会科学部研究科元教授の小林典子先生を講師にお招きし、「中上級学習者指導の留意点—実は難しい 初級で学んだ文法と語彙—」というテーマでご教示いただきました。

日 時：(花蓮会場) 2011 年 1 月 17 日(月) 10:00~17:00  
(台中会場) 2011 年 1 月 20 日(木) 10:00~17:00  
(台北会場) 2011 年 1 月 22 日(土) 10:00~17:00  
(高雄会場) 2011 年 1 月 24 日(月) 10:00~17:00

参加者：台湾の日本語教育関係者 花蓮 15 名 台中 37 名 台北 57 名 高雄 50 名

今回は 1 日を 3 セッションに分け、各セッションで小テーマごとに練習、質疑、解説のサイクルを繰り返していく形で進められました。

まず、午前のセッション 1 では「時間のとらえ方 (テンス・アスペクト)」をテーマに、5 つのパート (1. 超時間か現在か 2. 現在のこと 3. 未来のこと 4. 過去のこと 5. 複文) に分けて「る、た、ている、ていた」の使い分けが検討され、時間のとらえ方に応じて変わる「る、た、ている、ていた」の意味・用法の違いと指導の必要性が確認されました。

午後のセッション 2 では「動作主のとらえ方」をテーマに、3 つのパート (1. 方向、授受、受身、使役 2. 感情、感覚、思考 3. 敬語・謙譲語) に分けて、述語形式から動作主を判別する練習が行われ、主語を明示しないことが多い日本語文の動作主識別や動作の方向、受益か被害かの意味合い等、他人の動作と私との関係性や話し手の感情などが検討され、指導の重要性が指摘されました。また、受身文の検討中には、直接受身と間接受身 (迷惑受身) の判別にも話が及び、的確な判別法が示されました。

続くセッション 3 では「ノダ文をどのように教えるか」をテーマに、初級の初期段階から会話表現の定型句をそのまま提示する筑波大学の例が紹介され、ご著書の『わくわく文法リスニング』の練習も行われました。そして、中上級で重要となる、否定と推量の scope (作用域) について練習し、解説が加えられました。最後に「コロケーションの指導」について、ご著書の『コロケーションで増やす表現』の練習をやりながら、初級既習語彙を中級以降でも再三取り上げて意味・用法の知識の幅を広げていくことの必要性が指摘され、閉会となりました。

以上のように、今回の研修会は、1 日の研修としてはやや盛りだくさん過ぎる量が扱われた感がありましたが、終了後のアンケートにそのような意見は見られず、「いっぱい勉強になった」「たくさんの資料と練習があって今後の学習者指導に役立つ」、「たくさんの項目を詳しく説明していただき勉強になった」などの好意的な感想の他、「この研修会でずっと思っていた疑問を解くことができた」、「今までの文法の知識を異なる観点から再認識できた」、「文法に対して苦手意識があったが、練習問題と先生のわかりやすい解説で、そういう意識がなくなった」という声もあり、「とても役に立つ」、「とても勉強になった」という感想が多数寄せられました。

小林典子先生



研修会の様子（花蓮）



研修会の様子（台中）



研修会の様子（台北）

